

人工内耳を装着した5年生児童に対して、発音の指導及び感情の調整に関する指導を行った事例

1. 事例の概要

A児は、小学校5年生で通常の学級に在籍している。難聴で左右の耳に人工内耳を装着しており、言語障害通級指導教室において指導を受けている。

自分の感情をコントロールすることができず、周りの人たちの言動にすぐにいらいらする。また、自分の気持ちをうまく表現できずに感情を露わにすることが多い。そのような時は場所を変え、担任や特別支援教育支援員が落ち着くまでそばにいて話を聞き、A児の気持ちの安定を図っている。

教員の指示や学習の理解はよくでき、気持ちが落ち着いた状態であれば、集中して学習に取り組んでいるが、会話の中で、発音の誤りや不明瞭な話し方が見られる。

落ち着いた学習環境作りや、自分や相手の気持ちをメモに記し、視覚的に整理する手法により、当初は1人で休憩時間を過ごすことが多かったが、最近は、他の児童と遊び等で楽しむことができるようになってきた。また、発音についても舌や唇の操作がうまくなり、聞き取りやすくなってきた。

キーワード 言語の不明瞭さ、気持ちの切替え、意思疎通の困難さ、人工内耳、全体指示聞き取りの困難さ、保護者との連携

2. 幼児児童生徒の実態

A児は、小学校5年生で通常の学級に在籍している。難聴で左右の耳に人工内耳を装着している。発音では、「き」と「ち」の置換や「じ」が「ぎ」、「つ」が「ちゅ」などの誤りがあり、不明瞭で聞き取りにくくなる場合があるため、通級による指導（言語障害）を月2回受けており、落ち着いて学習に取り組んでいる。

A児は学校生活の中で学習に関しては大変意欲的で、進んで発表をし、与えられた課題に早く取り掛かることができる。大きな声で音読ができ、語彙は比較的豊かであり、読み取る力もある。しかし、他の児童との関わりが、低学年の頃からうまくできずにトラブルを起こしたり、喧嘩になると泣き叫び、暴言や暴力をふるったりすることがたびたびあった。怒り出すと、教員や友達の言葉掛けが聞けなくなり、興奮がおさまるまで自分の思いが言えなかったり、相手との話し合いができなかったりした。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- 人工内耳の扱い等に関して、医療機関や聾学校から指導を受けた。【基礎1】
- 個別の支援シートを作成し、教員間の連携を図ったほか、連絡帳等で保護者との連携も積極的に行った。【基礎1】
- 支援体制を整備し、特別支援教育支援員や合理的配慮協力員の配置を行った。また、インクルーシブ検討委員会（月1回）を実施した。【基礎2】
- 保護者と共に個別の指導計画を作成し、指導・支援の在り方を確認し実践している。また、全教員にも共通理解を図り、随時、修正・評価を行っている。【基礎3】
- 絵カードや拡大資料など視覚に訴える教材や情報機器等の活用を行った。【基礎

4】

- 刺激の少ない教室環境を整え、クールダウンできる場所も確保した。【基礎5】

4. 合意形成のプロセス

A児の保護者に対して、発音の誤りや聞きもらし、聞き間違いに関する学習面での支援と、友達とのコミュニケーションのトラブルに対応するための支援の必要性に関して話し合いを行った。A児への支援内容を決定するに当たっては、校長を含めたインクルーシブ検討委員会を開き、A児の将来的な自立と社会参加を見据えた支援の必要性を確認した。また、学校と家庭が十分に連携することが重要であること、A児の発達の程度、適応の状況等を勘案しながら柔軟に見直しを行うことを保護者との間で合意形成した。

5. 合理的配慮の実際

- 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりするように、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図っている。【合理①-1-1】
- 言葉を聞き取れていない場合は、特別支援教育支援員が耳元で復唱し、不安を少しでも早く取り除くようにしている。【合理①-2-1】
- 他の児童との気持ちの食い違いがあったときには紙に書いて状況を整理し、双方に自分の言動を振りかえらせるようにしている。【合理①-2-1】
- 他の児童との意思疎通を図るため、メモ帳を自分の気持ちを伝えるツールとして活用している。【合理①-2-1】
- 絵カードや写真等の視覚支援、具体物の教材の活用をしている。【合理①-2-1】
- 学校便りや学校ホームページの活用や、人権に関する参観授業などで、児童や保護者の理解啓発を行っている。【合理②-2】
- 補聴器の聞こえ方等について、学級の児童全員に理解を促している。【合理②-2】
- 困ったこと等を気兼ねなく相談できるような子ども同士の信頼関係づくりに努めている。【合理②-2】

6. 本事例の成果と課題

A児は活動中に怒り出すことが減り、気持ちの切替えができるようになった。周りの子どもたちも成長し、A児が怒り出しても静かに見守るようになってきた。

発音に関しては、舌や唇の操作がうまくなり、正しい発音を意識して言えるようになってきた。語彙数も増え、正しい発音を身に付けている。他の児童と誤解が生じたときは、誰がどのような気持ちで何を話したのかを時系列で文字に書き表して説明した結果、相手の行動を「まあ、仕方がなかったと思うよ。ぼくも悪いところがあったし。」と言うなど、好ましい言動を自分で考えられるようになってきた。

他の児童とのトラブルへの対応は、自分だけの力だけで解決することがまだ難しい。そのような場合の支援方法等を、次年度の担任にきちんと申し送ることが重要である。